

2010年4月4日

天声教会 1部日本語礼拝 週報

〒231-0058 神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストークタワー大通り公園 I -201
TEL/FAX 045-326-6211

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

霊の祈り	Faith97 vil2 #7
賛美	復活
賛美	何という愛
使徒信条	会衆一同
交読文	62
祈り	
メッセージ	復活(マルコ16:1~7)
祈り	
賛美	何という愛
主の祈り	会衆一同
祝福の祈り	メッセンジャー
報告	

祈禱課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、囚われの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・奉仕者が与えられるように: 礼拝準備、賛美リード、奏楽

祝福の御言葉 自分にあてはめて祈りましょう

あなたがたはバプテスマによってキリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストと共によみがえらされたのです。(コロサイ2:12)神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。(コロサイ1:13)

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によってです。(ガラ2:20)大切なのは、新しく創造されることです。わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。(コロサイ6:14,15,17)

メッセージ概要

復活(マルコ16:1~7)

イースターはキリストが復活された日で、それを祝う日である。イエスは金曜日に十字架で死なれ、翌日の安息日を1日置き、その翌日である日曜の朝、復活された。その朝、女達がイエスの遺体の手入れをしようとして、墓に行ったが、ある心配をしていた。それは、封印されている重い石を如何にするか、という事。しかしその重い石はどかされ、封印は砕かれており、イエスの遺体は無かった。

復活とは、人知をはるかに超える出来事であり、人間の様々な努力の無駄が露にされる。大きな石をどうやって転がそうかという心配も、朽ちていくスピードを葉などで留めようとする努力も、イエスの体を盗まないように兵士が見張る努力も、全て、無駄な努力となる。イエスは、死人の中にはおられない。生きておられるから。私達が日曜(主日)ごとに集まって礼拝するのは、イエスの復活を祝うためである。

「イースターエッグ」の起源には色々な説があるが、卵が象徴するものは墓と復活である。卵は石ころのような物体のように見えるが、内側にはいのちが宿っている。卵はどれも暖めれば必ず生まれるというものではなく、受精したものだけが生まれる。神の種が入っている者こそ、新しく生まれる事ができるのである。(1ヨハネ3:9)人にみことばという神の種が蒔かれ、その人が信仰によって自身と混ぜ合わせる時、復活の新しいいのちが生まれる。そのように受精した卵は、ある時硬い殻を破って新しいいのちが生まれ、母鳥はその雛を翼の下に覆い、成長するまで守る。

先日このイースターエッグを作った時、ここに集う聖徒一人一人の名前を挙げ、復活の祈りを込めつつ一つ一つ鍋に入れて行った。誰々の、何々という状態から、何々という復活が生まれますように。そう言いながら、卵を一つ一つ鍋にいれていく。奉仕中の遊び心かもしれないが、一つ一つ鍋に入れていく度に喜びに溢れていった。

御霊の実は愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です(ガラテヤ5:22)

無関心から愛が、憂いから喜びが、不安から平安が、不寛容から寛容が、冷淡から親切が、悪意から善意が、不実から誠実が、厳格から柔和が、不品行から自制が、復活として現れるように祈りたい。